

〈女性思想〉を追究し 〈家庭思想〉の展開を跡づける
ためには必須の大正期貴重文献。

婦人文庫刊行会

家庭文庫 全12巻



上 笙一郎
山崎 朋子

編纂 別冊解説付



クレス出版

『近代家庭』創出期の貴重文献

上 笙一郎 (児童史研究家)
山崎朋子 (女性史研究家)

日本には、古くより、『庭の訓』(阿仏尼)や『女大学』(伝 貝原益軒)をはじめとする多くの『女訓書』があった。『女性』にその生き方や生活の技術を教えて来ていた。封建社会の裡に生まれたものであるからして、当然ながら、女性を家長制度に縛りつけ、男性への限らない奉仕を説くものであったと言わなくてはならない。近代に入り、いわゆる自由民権運動の興った時期、「女学雑誌」と明治女学校を中心に男女同権 平等に立つ(クリスチャンホーム)を創ろうとの動きが芽生えたが、「大日本帝国憲法」と「教育勅語」の発布によって挫折。その以後は、多くの単行一冊本のほか博文館の『家庭文庫』(全十二巻)や『家庭百科全書』(全五十巻)などのような大部の女性教養書まで現れたけれども、例外なく、かつての『女大学』の系譜を継ぐものだったのである。

しかしながら、大正中期、第一次世界大戦の勝利によって日本資本主義が確立すると、事情が大きく変化した。それまでになかった知的な中間階層が出現し、その教養ある青年たちの配偶者を造り出す必要から、女性にも中等教育が求められ、実科女学校や高等女学校が増加したのである。そして、その卒業生たちを新たな『市民階層の家庭』の『良き主婦』たらしめる目的をもって、いくつもの女性向けの教養書や生活指導書が刊行されたのだった。

ここに複製する『家庭文庫』(全十二巻)は、それらのうちの代表的なものと言ってよい。当時の女子中・高等教育のリーダーとして高名だった人たちが、下田歌子(実践女学校校長・嘉悦孝子(日本女子商業学校学監)・吉岡弥生(東京女子医専校長)・棚橋絢子(東京高等女学校校長)・津田梅子(女子英学塾塾長)・矢島楫子(女子学院院長)・山脇房子(山脇高等女学校校長)・跡見花蹊(跡見女学校校長)・三輪田真佐子(三輪田高等女学校校長)などが、『婦人文庫刊行会』という会を結成。そしてこの会が、江戸時代の女訓書を集めた『婦人文庫』(全十二巻)に次いで、その『近代版』として編んだものがこの『家庭文庫』叢書だったのである。いわゆる大正デモクラシー思潮のみなぎった一次大戦後ではなく、その直前の執筆・刊行であったからして、『フェミニズム』に立脚した家庭論ではなく、『その一歩手前の家庭論』だとしなくてはならない。しかし、大正中期を代表する女性論 家庭論の一大叢書であることは確かである。

したがって、『女性思想』を追究し(『家庭思想』の展開を跡づけるためには必須の文献なのだけでも、全冊を所蔵している図書館は、国立国会図書館をはじめ一館もない。幸いにわたしたち夫妻はその全冊を所蔵しており、それを原本として、複製に踏み切ることにしたのである。さまざまな研究に役立つことを、編者として心より願うものだ――

新婦人訓 成瀬仁蔵著

新婦人訓

第二章 婦人の第二の誕生

一 人格の進歩

婦人が始めて自己に眼醒める、即ち自覚するといふことは、婦人にとつての大なる進歩であり、人格の向上である。此の進歩といふことは現代婦人の人格に於てのみいふ言葉ではない、人間を始めて凡ての生物が生命を保全し又之を永久に發展せしめて行く第一の要件である。近い例が、先づ人間の身體の健康も常に進歩しなければ我等の身體は生れついたらまゝの幼弱で居なければならぬ。けれども我等の身體は生れてから死ぬるまで何時も同じものでなく、血も肉も骨も皮も絶えず新陳代謝して居る。それで

婦人文庫刊行会

本會編輯顧問

(イロハ順)

東京帝國大學 教授 芳賀 矢一	女子英學塾長 津田 梅子	東京帝國大學 教授 成瀬 仁蔵	東京帝國大學 教授 三上 參次
東京帝國大學 教授 西田 敬止	東京帝國大學 教授 上田 萬年	東京帝國大學 教授 矢島 楫子	東京帝國大學 教授 宮田 修
東京帝國大學 教授 和田 謙三	東京帝國大學 教授 山脇 房子	東京帝國大學 教授 山脇 房子	東京帝國大學 教授 下田 歌子
東京帝國大學 教授 渡邊 滋	東京帝國大學 教授 山脇 房子	東京帝國大學 教授 山脇 房子	東京帝國大學 教授 下田 次郎
東京帝國大學 教授 嘉悦 孝子	東京帝國大學 教授 跡見 花蹊	東京帝國大學 教授 跡見 花蹊	東京帝國大學 教授 下田 次郎
東京帝國大學 教授 吉岡 彌生	東京帝國大學 教授 麻生 正藏	東京帝國大學 教授 麻生 正藏	東京帝國大學 教授 下田 次郎
東京帝國大學 教授 高田 早苗	東京帝國大學 教授 佐々 政一	東京帝國大學 教授 佐々 政一	東京帝國大學 教授 下田 次郎
東京帝國大學 教授 田所 美治	東京帝國大學 教授 三輪田 眞佐子	東京帝國大學 教授 三輪田 眞佐子	東京帝國大學 教授 下田 次郎
東京帝國大學 教授 棚橋 絢子	東京帝國大學 教授 三輪田 元道	東京帝國大學 教授 三輪田 元道	東京帝國大學 教授 下田 次郎

本會評議員

法學博士 浮田和民
杉山重義

家庭文庫 全12巻構成

女性原論

新婦人訓 成瀬 仁蔵著

〔内容〕 子の観たる現代の婦人、現代婦人の行くべき道、婦人の第二の誕生、信念とは何ぞや、信念と修養、信念と信仰、信念と人格、婦人の天職、家庭の根本義、社会的生活関係、国運を卜する婦人の力 (大正五年八月刊)

良妻賢母論 宮田 脩著

〔内容〕 婦人と妻母、妻とは何か、さまざまな妻母、良人と境遇、良妻たる素質、母とは何か、賢母たるの素質 (大正五年五月刊)

家庭原論

家政講話 嘉悦 孝子著

〔内容〕 家庭、生活、養老及び育児、教育、交際、看病、経済 (大正五年六月刊)

家庭経済 和田垣謙三著

〔内容〕 家、経済の大意、我が家と家庭、家庭経済の実際、経験上より得たる家庭経済、家庭経済の要項 (大正六年五月刊)

家庭生活

理想の住宅 保岡 勝也著

〔内容〕 住み心地のよい家、時代の要求する住宅、住宅發達の歴史、住宅建築に就て注意すべき事項、間取の研究、裝飾と家具、庭園、家屋の修繕と年中行事 ほか (大正四年十二月刊)

家庭衛生 吉岡 弥生著

〔内容〕 健康と病氣、衣食住、日常衛生、家庭医療、婦人衛生、育児衛生 (大正四年十二月刊)

家庭教養

家庭博物 石川千代松著

〔内容〕 松飾、春の七草、園芸、三月の節句、昆虫採集、五月の節句、海辺の動物、植物の害虫、金魚、九月の節句、秋の七草、紅葉と落葉、進化、遺伝 ほか (大正五年十一月刊)

新美装法

新美装法 藤波 芙蓉著

〔内容〕 顔容の色艶及び地肌に於ける美育の方途、扮飾美化の準備、毛髪整美の方策、顔容の各部造作に於ける美化の手段、足美に於ける保護及び添加法 ほか (大正五年四月刊)

家庭文化

家庭の娯楽 松浦 政泰著

〔内容〕 家庭文芸、家庭理科、団樂遊戯、家庭会合、家庭園芸、戸外娯楽 (大正四年十月刊)

芸術講話

芸術講話 島村 抱月著

〔内容〕 文芸篇(文芸の人生に於ける目的、文芸と国民性及び時代的關係、世紀末思想の特質、美術篇(仏蘭西写実主義の絵画、欧州に於ける新劇運動の経過) ほか (大正六年四月刊)

産育教養

産育教養 三田谷 啓著

〔内容〕 健康児童、児童の衛生、児童の教育、児童の疾病 (大正五年十一月刊)

児童の教養

児童の教養 高木 敏雄著

〔内容〕 児童の目的、児童の起源と其の伝播性、智力の勝利、滑稽趣味、童話と天然伝説 ほか (大正五年一月刊)

別冊解説執筆者(敬称略)

女性原論

新婦人訓

良妻賢母論

家庭原論

家政講話

家庭経済

家庭生活

理想の住宅

家庭衛生

家庭教養

家庭博物

新美装法

家庭文化

家庭の娯楽

芸術講話

産育教養

児童の教養

児童の研究

幡鎌 真理

山崎 朋子

持田 良和

関口 安義

上 笙一郎

尾崎 るみ

婦人文庫刊行会『家庭文庫』 全12巻・別冊解説

上笙一郎・山崎朋子 編纂

《女性原論》新婦人訓	成瀬 仁蔵	良妻賢母論	宮田 脩
《家庭原論》家政講話	嘉悦 孝子	家庭経済	和田垣謙三
《家庭生活》理想の住宅	保岡 勝也	家庭衛生	吉岡 弥生
《家庭教養》家庭博物	石川千代松	新美装法	藤波 芙蓉
《家庭文化》家庭の娯楽	松浦 政泰	芸術講話	島村 抱月
《産育教養》児童の教養	三田谷 啓	童話の研究	高木 敏雄

四六判／上製／本文クリーム中性紙（原本の装丁を忠実に復刻）

揃定価90,000円（税別） ISBN4-87733-326-6

別冊解説 並製 定価1,000円（税別） ISBN4-87733-327-4

『家庭文庫』全12巻、別冊解説 揃定価91,000円（税別） 平成18年7月末日刊行

● クレス出版好評既刊書 ●

女性日本人

全12巻／別冊総目録、解題付 佐藤能丸監修

婦人総合雑誌として三宅花圃が主宰し、大正9年9月に創刊、大正12年9月の終刊まで全38冊が刊行された。婦人参政権・男女平等・生活改革・恋愛と貞操など多方面に目配りした重要な問題を取りあげている。また大正後期の文学状況を知るに不可欠な資料。

A 5判／総7,900頁／揃定価175,000円 ISBN4-906330-74-6,75-4

婦人と新社会

全7巻／別冊総目録、解題付 五味百合子監修

山田わか個人評論雑誌として、わかを主筆に、夫嘉吉を編集発行人として大正8年4月創刊され、昭和8年7月第160号まで刊行されたものを復刻。婦人問題研究の宝庫であり、わか婦人問題は「愛」という主張が全号を通じて掲げられている。

B 6判／総5,100頁／揃定価本体90,000円 ISBN4-906330-76-2

叢書 日本の児童遊戯

全25巻別巻1 上笙一郎編、各巻解説付

江戸時代より第二次大戦期までに出版された〈子どもの遊び〉にかかる文献のうち、理論的・研究的・教育的・実技習得的および好事趣味的なもので、しかも稀覯的なものを復刻。

第1回配本 I. 伝承的な遊びと玩具 第1巻～第9巻 全9巻
揃定価94,000円 ISBN4-87733-200-6

第2回配本 II. 近代の遊びと研究 第10巻～第16巻 全7巻
揃定価83,000円 ISBN4-87733-201-4

第3回配本 III. 遊びと子ども 第17巻～第25巻 全9巻
揃定価98,000円 ISBN4-87733-202-2

別巻 総論 日本の〈遊び＝おもちゃ研究〉のあゆみ（上笙一郎著）

叢書 日本の児童遊戯 全25巻 解説集

定価5,000円 ISBN4-87733-203-0

A 5判／総14,460頁／揃定価280,000円 ISBN4-87733-204-9

《日本人、育てのなかのしつけ論》 文献シリーズ

全9巻／石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治から昭和末までの18文献を収録。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など広域におよぶ視点から選抄。

A5判／総4,560頁／揃定価本体90,000円 ISBN4-87733-327-X

第1巻 日本のしつけ、日本礼法史話

第2巻 婦女心得 躰と育、子供の躰方 一名育児憲法

第3巻 家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躰け方

第4巻 女工の躰けと教育、女工の躰けは此呼吸から

第5巻 国民学校 躰の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躰

第6巻 幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ

第7巻 こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ

第8巻 巨視的しつけ法、しつけ

第9巻 言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点、しつけ

家族研究論文資料集成

明治 大正 昭和前期篇全27巻別巻1 老川寛監修・解説

明治初期から昭和20年8月までの「家族」に関する論文資料を収録。

第1回配本全5巻 家族・家族制度論、家族・家族制度史

揃定価86,000円 ISBN4-87733-092-5

第2回配本全6巻 家族構造、大家族、戸籍・人口（統計）

揃定価116,000円 ISBN4-87733-093-3

第3回配本全5巻 家族の機能、家族の伝統と変化、農・山・漁

村家族、都市家族 揃定価113,000円 ISBN4-87733-094-1

第4回配本全6巻 婚姻 揃定価120,000円 ISBN4-87733-095-X

第5回配本全5巻 離婚、相続、隠居、分家、親子、親族・同族

・氏族、家族の問題 揃定価80,000円 ISBN4-87733-096-8

第6回配本 別巻 総目次、執筆者別索引、解説

本体5,000円 ISBN4-87733-097-6

A 5判／総24,500頁／揃定価本体520,000円